

講義名	パーソナリティ論			授業形態	
担当教員	銅直 優子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

私たちは、個人の考え方や行動の仕方に一貫した傾向を見出し、「Aさんは社交的な人だ」、とか「Bさんは神経質な人だ」などと表現する。このように、個人の思考や行動を特徴づける一貫した傾向をパーソナリティという。
本講義では、パーソナリティがどのように形成され、どのように我々の社会生活に影響を与えるのかについて学んでいく。また、我々のパーソナリティを客観的に理解していくために、どのような方法があるのかを学んでいく。講義の中では、実際に自己のパーソナリティを測定し、その結果についても分析していくことで、自己理解を深めていく。

到達目標

パーソナリティがどのように形成されるかを理解することができるようになる。
パーソナリティをどのように測定するかを理解することができるようになる。
パーソナリティにはどのような側面があるかを理解することができるようになる。
パーソナリティが我々の社会生活に与える影響を理解することができるようになる。
自分のパーソナリティ特徴について客観的に理解することができるようになる。

提出課題

授業中に適宜指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内の質問等については、次回以降の授業内で解説を行う。
小テストや中間テストについては、次回の授業内で解説を行う。

評価の基準

中間テスト（40%）
定期試験（60%）

履修にあたっての注意・助言他

第1回目の講義では本講義のルール等を説明するため、必ず出席すること。
基本的なマナーを守って受講すること。守れない場合には、講義への出席は認めない。
・遅刻
・私語をしない。
・携帯電話、スマートフォンを指示がない限りはカバンの中にしておくこと。
・その他、他の人の迷惑になるような行為はしない。
板書や呈示資料のみを書き写すだけのノートではなく、口頭説明から理解できたことについてもしっかりとメモを取るノート作りを心がけること。

教科書

・使用しない。				
・資料を適宜配付する。				

参考図書

・性格心理学への招待(改訂版)、	梅本亮夫・大山正 監修	サイエンス社	2310	978478191044
・はじめてふれる性格心理学。	清水弘明	サイエンス社	1980	9784781908984

その他

授業開始時に資料を配付する

授業計画

第1回：パーソナリティとは：性格と人格
（復習 2時間：）性格、人格、パーソナリティの用語について授業で学んだ内容を踏まえて整理し、まとめておく）
第2回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ
（復習 2時間：）
第3回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ
（復習 2時間：）
第4回：類型論と特性論：血液型と体型
（復習 2時間：性格理論の類型論について授業内容をまとめなおす）
第5回：類型論と特性論：特性論の種類
（復習 2時間：性格理論の特性論について授業内容をまとめなおす）
第6回：類型論と特性論：性格の因子数（性格にはいくつの側面があるのか？）
（復習 2時間：類型論と特性論の違いを整理し、それぞれの説明ができるように整理する）
第7回：パーソナリティの理論と実際 5因子性格検査
（復習 2時間：返却後の中間テストの見直し、5因子性格検査を性格理論で説明できるようにする）
第8回：パーソナリティの理論と実際 Y-G性格検査
（復習 2時間：Y-G性格検査を性格理論で性格理論で説明できるようにする。またY-G性格検査の結果から自己分析し、結果をまとめると）
第9回：パーソナリティの理論と実際 投影検査
（復習 2時間：類型論と特性論の理論を5因子性格検査とY-G性格検査を用いて説明できるようにする）
第10回：パーソナリティの理論と実際 性格検査まとめ
（復習 2時間：授業で説明のあった性格検査のまとめを参考に性格検査の活用方法、意義について説明できるようにする）
第11回：対人魅力・好まれる人と嫌われる人
（復習 2時間：返却後の中間テストの見直し）
第12回：対人魅力・類似説と相補説
（復習 2時間：類似説と相補説について、授業内で紹介した研究内容を整理し説明する）
第13回：対人コミュニケーションにパーソナリティがどのように関係しているかを授業内の内容を踏まえて説明する）
（復習 2時間：対人コミュニケーションにパーソナリティがどのように関係しているかを授業内の内容を踏まえて説明する）
第14回：自己意識と自尊
（復習 2時間：授業時紹介した自己意識と自尊心に関する研究内容を整理しそれらが人間の心や行動にどの世用に関連しているかを説明する。）
第15回：健康とパーソナリティ
（復習 2時間：健康と不健康の違いをパーソナリティとの関連から説明する）
* 第6回目と第10回目に中間テストを予定している（授業内で説明）

【予習について】 各回の授業前にキャンパスクロスの資料の提示しているKeywordについて自分で調べてノートに整理しておくこと（各自2時間程度）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク

○ キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）

複数回、心理検査を授業の中に取り入れるため、実習要素のある取り組みを行ってもらう

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標の、を達成することで、「人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測すること」に貢献することができる。また到達目標のを達成することで、「日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」に貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向を実施する会については、キャンパスクロスや学習支援システム等を活用し、受講生の反応を授業時に紹介し、その反応に対して解説を行っていく予定である。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」授業内で行ういくつかのパーソナリティ検査については、病院臨床において人格査定で実践している。

備考